

●法奥小学校 4年生児童の感想文

たまご産むかな

上川原 拓哉

「この川、名前ついてないの。」

林に入って川を見たときそう思いました。焼山の近くにあり、はばが50センチメートルくらいの川です。そして、大人の人たちがイワナがたまごを産む場所を作る手本を見せてくれました。その時みんなは、「すごいな。すごいな。」

と言いました。砂をスコップでほって、イワナがきちんとたまごを産んでほしいと思いながら、働いている事が分かりました。重い石が入ったふくろを、川を止めるために置いていました。板を坂の所に立てて完成しました。ぼくは、

「すごい。早くやりたい。」

と、言いました。

次がぼくたちの番です。赤組と白組にわかれて作業しました。最初、大人たちがやっていた時、砂をほっていました。見ていた時は、けっこうかんたんにほれそうだと思ったけど、みんなはけっこうほれていたのに、ぼくはあんまりほれませんでした。スコップが重くて深くほれません。ぼくは、

「もっとがんばろうよ。」

と、赤組の人たちに話しました。

そして、少しずつ、大人たちがまざっている時に、見ながらやりました。いっぱい砂がとれました。したら、大人の人たちに、

「すごいね。君。」

と言われました。二度も「上手。」と言われたのでとってもうれしかったです。次は、重い石が入ったふくろを坂がある所に置きます。でも、一人じゃ重すぎるので、二人ずつ持ちました。そして、どんどんと坂の所に置いていきました。するとぼくは、

「あともうちょっとで完成だね。」

と、赤組たちに話しました。

最後に、大人の人たちが、板を坂の所に立てました。

そして、赤組は完成しました。白組も完成しました。川を見ると、水の色が茶色からとう明な色に変わっています。とってもきれいでした。最初は、どろ水だったけれど、イワナのために、水をきれいにすると心がけてやりました。少しの水が流れていた川も、きれいにしていきたいなと思いました。足もすこくぬれました。それだけとてもがんばったことが分かりました。

これからも、水がきたない所があったら、きれいにしていきたいです。そうするとふるさとの自然がきれいになって、みんなも喜んでくれると思います。

ぼくは、

「早くたまごを産んでほしいな。」

と、願いをこめました。

イワナの里づくり

上坂 真紀子

最初に、見本として大人の人たちが見せてくれました。今日は、イワナの家を作るため、つた川のとなりの小さな川にクラスで来ました。

まず、40センチメートルぐらいのあなをほります。スコップでほります。次に大きい石を入れます。その次に小さい石を入れて、最初のあなをほった土をふくろに入れます。結んで土やすながこぼれないようにします。

いよいよわたしたちの番です。赤組と白組で分かれてやりました。最初に、40センチメートルのあなを、スコップでほりました。ほりにくかったし、すごく重かったです。順番に、一人、2、3回ずつやりました。次に大きい石を入れます。わたしはももちゃんと声を合わせて、

「いっせいのおで。」

と、声を合わせながら石をババーと入れました。けっこう重かったです。もうすでに、ズボンの下の方がぬれて冷たかったです。どんどんできてきました。わたしは、

「早く完成して、イワナがたまごを産んでほしいな。」

と思いました。その次に小さい石を入れます。これは、すごく軽かったです。にごっていた水が流され

て、どんどんきれいになっています。次に、最初にほった土を入れたふくろを、水が少し流れるくらいに土台にします。それは大人が運んでくれました。その次に、板をうちました。水の流れをゆるやかにするのです。これは大人がやりました。2枚から4枚くらい打ちました。とうとう完成しました。わたしは、「やったあ、できたあ。」

と喜びました。水がすき通って見えました。

作った後、写真をみんなでとりました。その後に、歩いて足湯に行きました。その足湯は、いつもぬるかったのに、この時はあたたかかったです。わたしは、「あったかいな。」

と言いました。冷たかった足もあたたかくなりました。ぬれた所をふいて、バスに乗って帰りました。

わたしはイワナの里を作ってよかったなと思いました。これからも何年も使ってほしいです。また機会があったら作ってみたいし、本当にイワナがたまごを生んだら、そのたまごを見てみたいです。ふるさとの川を大事にすると、いろいろな生き物が安全にくらせます。これからは川をどんどんきれいにしていきたいです。

たまごを産んでほしいなあ

小笠原 麻那

「ここが入り口かあ。」

ここはイワナの里の入り口です。こけが石にへばりついているみたいでした。草の中を歩いていると、「ザーザー」

と音がしました。

「なんだろう。」

と思って横を見たら、とても小さい川が流れていました。もう少し歩いていくと、川の方を見て止まりました。わたしは、

「どうしたんだろう。けがをしたのかなあ。」

と思いましたが、ちがいました。川をわたっていました。川の流れは速かったです。わたったら、また歩いて行きました。そしたら、川が大きくなっている事に気が付きました。歩いていると中で大人の人達が止まってしまいました。そして、

「お手本を見せるからね。」

と言いました。とても速く、とてもていねいに、さっさと作業を進めていました。みるみるうちにイワナのたまごの入る場所ができあがりました。わたしは、

「かっこいいなあ。こんなに速くできるんだ、すごいなあ。」

と、とてもそう思いました。わたし達もやりました。まず、赤組と白組に分かれました。わたしは白組でした。まず、雪乃ちゃんがスコップで石やすなをたくさんふくろに入れていました。

「麻那もやる。」

と言ってスコップを持ったら、

「スコップが重たいよお。」

と言いました。そしてほり出しました。すなや石はすうっとにげていきました。わたしは、

「雪乃ちゃんすごいなあ。」

と思いました。玲香ちゃんが、

「お手本見せてあげる。」

と言ってほってくれました。玲香ちゃんもスコップにすごく石やすなが入っていました。わたしも、もう1回チャレンジしました。少しだけど、すなが入っていました。うれしかったです。ほった土やすなを大きいふくろに入れました。そのふくろを二人一組で川の横に運びます。わたしは真紀子さんと持ちました。とても重くてつかれました。そのふくろを3回くらい運びました。その後、大人がイワナの家の土台を作りました。その土台のまわりにさっきのふくろを置きました。イワナの家が水たまりみたいになりました。これで完成です。わたしは真紀子さんたちと、

「よかったね、きれいにできて。」

と言いました。

今まで水なんて気にしてなかったけど、いろいろな用水路や川を見るたび、水を観察するようになりました。わたしたちの作ったイワナの家に、たまごをうんでほしいなと思いました。大きくなったイワナがまたこの川にもどってきてほしいなと思います。そのために川をきれいにする気持ちを大切にしたいです。